

# 第5回 小中一貫校準備会議

## 議事録 要旨

- 1 開催日時 平成26年12月16日(火)19:00~21:00
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）  
諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）  
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）  
十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校校長）  
富山二郎（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）  
（株）教育施設研究所から3名

### 4 開会あいさつ

### 5 質疑応答

座長 : 教育総務課長より前回会議を受けて現時点までに検討したことを説明していただく。

事務局 : 前回の会議で出た基本設計案に関する要望事項について検討したことを説明する。教室配置については、育友会から「9年生である中学3年生が落ち着いた環境で学習できるよう、低学年とは教室のフロアを別にしてほしい」、北小から「2階に1年生から4年生、3階に5・6年と外国語教室を挟んで7年から9年生の教室にしてほしい。」という要望があったので、そのような配置にしたい。また、普通教室に変更可能な仕様にしてほしいとの要望があった。新たに部屋を増設するのは困難だが、少人数教室、外国語教室、生活科教室をそのような作りにする。

音楽室が狭いということを受けて検討案を図面で示している。ここでは既存の中学校の音楽室の面積126㎡を確保し、メディアスペースを拡張して楽器庫にすることも可能である。この形でいいか、学校で考えていただきたい。

保健室については要望のとおり、トイレ・シャワー・洗濯機を設置する。また、保健室の隣に相談室を設置する案を2つ提示した。1つは保健室の広さを普通教室の1.5倍にし、そこに相談室を設置する案で、特別支援教室は2教室分である。もう1つは保健室の広さを2教室分とし、特別支援教室を1.5教室分にしてそこに相談室を設置する案である。違いは保健室を広くとるのか、特別支援教室を広くとるのか、であり、どちらがよいか学校で検討していただきたい。

職員室については、テスト等の印刷もあり、印刷室を職員室内にしてほしいとの要望があった。変更案では職員室を通らなければ印刷室に入れられないような配置にした。校長室と印刷室と放送室は入れ替えが可能である。どのような形にするのか学校で検討していただきたい。

図書室の中身については、実施設計段階で検討する。そのほか、全館への空調設備設置だが、生駒市では導入していない。現在、鹿ノ台中学校ではエコスクールとして環境に配慮した改修に取り組んでいる。そこでの取組も参考に、建物の高断熱化、ペアガラス、地中熱利用によるオープンスペースの床暖房など再生可能エネルギーを利用した教育環境の整備を小中一貫校では検討している。普通教室への空調の導入は現時点では考えておらず、図書室、多目的室、音楽室等の特別教室には従来通り入れる。

低学年用運動場は、遊具が少なく場所も狭いので南に拡張してほしいということだが、そうなるのと運動場が狭くなるので、低学年用運動場の要望を優先するのかどうかについて、学校で検討してほしい。必要な遊具についても学校から提示してほしい。

通学路は東門に関わる通学路の安全確保について県の郡山土木事務所、市の担当課と連携しながら取組を進めている。状況を報告できる段階になったら報告する。職員室から見えるところに北門と東門を配置しているのに、来客用駐車場や通用門を現在の位置に設けると見えなくなるのではということだが、これは今後の検討課題である。

学童保育の場所については、防災倉庫付近に立てる、あるいは調理室の西側に移動する等の要望があった。また、学童専用のトイレを作る、保育室の面積が今より狭いので拡張する等の要望があった。当初案の学童保育室と会議室等の1階南側の校舎において教室の入れ替えは可能である。

教員の要望については今後の状況を踏まえて考える。テニス部員用のトイレは検討する。職員駐車場に防犯カメラを設置することは考えていない。子どもたちの安全に必要ななら検討するが。地域開放スペースのトイレの扉の位置だが、1階の教室配置によって変わってくる。美術室と被服室は逆にした方が良いということだったので、そのように変更した。見守り等防犯の方のためのスペースについては検討したい。茶室がほしいという要望だが、今のところ多目的室に可動式の畳を設置する等の対応を考えている。

座長 : 質問があれば出していただきたい。

参加者 : 設置基準は学童保育室を含めた広さなのかを確認したい。学童の前には駐車スペースがあり、事故も起きやすい。学童保育所があることで教室配置が窮屈になっている。

事務局 : 国の補助対象になる資格面積は学級数で決まる。現状の学級数であれば、おそらく5000㎡前後と思う。学童を除いても約6000㎡で国の補助対象を上回る。

参加者 : 校舎を建てるにあたっては奈良で一番の施設をと期待していたし、お願いしていた。期待外れである。もう少しゆとりがほしい。学童は将来、子ども園の場所に移設することはないのか。職員の駐車場は消防分署跡地、学童駐車場は敷地内ということがずっと続くのは遺憾だ。

事務局 : 学童は厚生労働省の所管であるが、子ども子育て支援新制度の中で、放課後の子どもの居場所づくりを、と言われている。だから小学校の敷地内に学童があることは、もう、時代の流れと思う。学童が入ることにより他の教室が1部屋減ることについてだが、学童の子どもも学校に通う小学生である。その点を理解してほしい。施設については、現場の先生が使いやすいように、と考えている。

参加者 : 相談室が1つしかなく、不登校児童生徒対応のためには小中学校で1つずつほしい。保健室に付随した相談室がほしい。

事務局 : 小中学校の保健室それぞれに相談室が必要だということか。

事務局 : 相談室の大きさはどの程度か。

参加者 : 同じ広さの相談室がほしい。

事務局 : 部屋が固定してしまうが、その方が使い勝手がいいのか。

参加者 : 学童を外部へ移動させれば解決する。

事務局 : 相談室については検討する。

参加者 : 学童の2階や3階に部屋を作るのは可能か。

事務局 : 北小中一貫校は規格面積以上の校舎を計画しており、この範囲内でとどめたい。

参加者 : 基準を超えているのはわかっているが、他の地区からも子どもが入ってくるような学校にしたい。茶室や和室があったほうがいい。これは地域の声なので、保護者の意見として私は伝える。

事務局 : 視察に行った宇治黄檗小中学校は、お茶の産地でお点前ができるよう茶室をそなえていた。しかし学校関係者によれば、あまり使われない部屋だと不評だった。

参加者 : お点前だけでなく、様々な科目を様々な方面で使いたい。茶室があることでより魅力的な学校になる。

事務局 : 面積は精一杯広くしているので、その点は設計業者と相談したい。

参加者 : エアコンの導入予定はないということだが、後から付けるのなら今からつけておいた方が費用面でいいのではないか。

事務局 : 後付けは高いかもしれないが後になるほど性能が良くなる。今高くても将来的に安くなることもある。そう考えると、いつつけても大差ない。

参加者 : 学校ではインフルエンザ対策の為、ドアや窓を頻繁に開けて換気するのだが、新しい校舎にはどんな暖房を考えているのか。

事務局 : 各教室はガスファンヒーターで、オープンスペースは地中熱を利用する。

参加者 : 葛城市の当麻小学校では窓側に集中暖房を設置していた。桜井小学校もそうだった。集中暖房の方がいいと思う。

事務局 : 集中暖房とはどういうものか？

参加者 : 教室にパイプで熱を送り循環させるもので、費用がかかるが安全である。

事務局 : 総合的に判断する。地中熱利用も初期投資はかかるが、長い目で見れば効率的ではないかと考えている。具体的なものがあれば教えてほしい。

参加者 : ガスは安全の意味でもどうかと思う。

参加者 : この辺りは公園がなく、ブランコがほとんどない。ひかりが丘にはあると聞いている。こども園ができるがサイズが小さいだろう。遊びを通じて体力をつけるという点で、低学年用運動場で滑り台とジャングルジム以外にも遊具を設置できないか。一輪車も小学校にあるので、遊具を増やし、遊ぶスペースを広げることにはできないか。茶室か和室を作ればお花も和食を食べることもできる。座り方を教えることもできる。地域からのお願いだが、和室は伝統文化や地域のシンボルとして、懇話会の席上でもかなり言われていた。

事務局 : 和室については検討したい。それは我々も感じていることである。遊具については小学校から示していただければ検討したい。

参加者 : 学校として考えているところだ。小学校の体育の授業では遊具は欠かせない。体力を向上させるためにも遊具は必要だが、このスペースでは狭いというのが教職員の意見だ。もう少し広くしてビ

オートプを遊具のスペースにという意見もあるので、学校から要望を出す。

事務局 : できるだけ学校の意見を反映していきたい。

参加者 : 保健室のトイレの男子トイレと女子トイレで広さが違うのではないかな。

設計業者 : 図面が切れているだけで同じ広さである。

参加者 : 学校では用務員は貴重な存在で、その方の部屋がないのが気になる。

事務局 : 平成 20 年ごろまでは用務員は住み込みだったので生活スペースとして用務員室が必要だった。しかし今は通いで勤務している。学校事務職員と一緒に、学校スタッフとして職員室内にいてほしい。

座長 : 事務局提案の中で、全く話し合いの話題になっていないことについて意見を述べてほしい。

参加者 : 技術室は 1 階がいい。集塵機でゴミを吸うし、校舎外に出ることも多い。学童保育室を技術室にしてほしい。3 階に重い重機や木材を持っていくのは不便だ。運動場については、砂場と鉄棒は小学校の授業でも使うので必要だ。階段は小学校と中学校で別にするのと聞いたが、段の高さは変わるのか。

事務局 : 小学校用の高さで統一する。

参加者 : 手洗い場はできるだけたくさん設置してほしい。

事務局 : トイレの前や廊下に設置するが、詳細設計になったら提示する。

参加者 : 中学校の理科室は廊下を取り込んで広くできるか。

事務局 : 理科室拡張は可能だ。検討したい。高鉄棒と砂場はつける。技術室を 1 階にする理由は何かな。

参加者 : 木くずや廃材が多いこと、また、集塵機が校舎の中にあるとうるさくて授業に支障をきたすので外にあったほうがいい。

事務局 : 今、集塵機が中にあるが、集塵機以外の理由は何かな。

参加者 : 実習で外に出ることがある。1 階にあるほうがすべてうまくいく。

事務局 : 検討する。

参加者 : 学童保育室を技術室に、3 階の相談室と会議室を学童保育室に、会議室と相談室を 1 階にというのは可能かな。

事務局 : 地域の人が会議室を使う場合、1 階の方がいい。何を優先するかを考えないといけない。その点も含めて検討する。

設計業者 : 実際に技術室を 2 階や 3 階にしている学校があり、十分利用されている。

事務局 : 使う頻度を考えると、学童保育室は毎日使い、また、低学年も利用するので 1 階がいいと考える。技術室や会議室の使用頻度を考え、また、特別教室は仕様も違ってくるので慎重に考えてもらいたい。

参加者 : 技術室の使用頻度が低いから 3 階でいいというのはおかしい。地域のための学校かもしれないが、子どもが使う学校であり、優先順位は子どもが第一である。

事務局 : 子どもが第一だといくことについてはぶれていない。そういう意味では学童の子どもたちも学校の子どもであることをふまえてほしい。

参加者 : 事務室や印刷室を別にする案だが、職員室の中に事務室や印刷室があると事務職員とも情報共有できる。また、校長室と職員室が行き来できないと風通しも悪くなる。

事務局 : 現場が使いやすいのが一番である。使うのは子どもと教職員なので使い勝手のいいように考えて

ほしい。事例は設計事務所がたくさん持っているので問い合わせしてほしい。

参加者 : 立体模型を見ると、職員室の壁で低学年の遊び場が見通せなくなり、安全面で問題が出るのではないか。

設計業者 : 非常階段なので見通せる。

参加者 : 校長室が孤立しているということだが、印刷室と放送室と事務室を続きにして風通しのいいつくりになればいいのではないか。学童保育室の日照はどの程度期待できるのか。

参加者 : 学童は2時40分くらいから延長保育で7時くらいまでだ。

設計業者 : 午後の陽が入りやすいように設計している。

参加者 : 子どもたちの送迎用の空間を前回提案したのだが、どうなっているか。

事務局 : 学校では、保護者が車で送迎することを原則禁止している。実際はどうなのか。

参加者 : 小学校では遠い家は迎えに来ているし、そのまま習い事に連れて行く保護者もいて、車での送迎がある。

事務局 : 校長先生が許可しているのか。

参加者 : 家庭の事情である。

参加者 : 打田は送って来られる。中学校の前は狭いので小学校の前で子どもを降ろしてもらっている。自転車通学の子は雨の日に下校する時、職員室前の公衆電話から家に電話をしている。

事務局 : 市教委は基本的に車の送迎は認めていない。特別の事情以外は車の送迎はない認識である。自転車通学は認めているが。このことについては、東門の安全や近隣の方の迷惑、バスの運行を考えると、もう少し具体的になった時に提案する。車の送迎については後ほどその状況について校長先生に聞く。

参加者 : 地域の状況を分かっていない。地域の状況をよく考えてほしい。車での送迎が悪いことはわかっているが冬場に自転車で女の子が一人で傍系まで帰る状況を考えてほしい。

事務局 : だからこそ北地区について、市教委は傍系までの通学路の安全等について最も検討すべき地域として考えてきた。

参加者 : 消防団第4分団の約50名が駐車するスペースは確保できているのか。

事務局 : 消防の総務課と話をしている。詳細をつめて回答する。今のところ40台は駐車可能である。

参加者 : 職員駐車場の防犯カメラは設置できないのか。

事務局 : こどもの安全ということなら設置できるが、職員のためということでの設置は考えていない。

参加者 : 職員の車に何かあれば困るのだが。

事務局 : こどもの安全のためなら設置することはできる。

座長 : 授業が展開された時のことを考える必要がある。オープンスペースで教室内の子どもは騒音が気にならないか、とか、技術室も3階から1階にすると128㎡あった広さが98㎡になる上、3階から1階に移動することになるが、それでいいのか、とか。子どもたちの動線や広さを考えるのが大事だ。それから茶室はニーズが高い。が、必要かどうか、可能かどうかを考えていかなければならない。

参加者 : 給食時の動線を考えると、小学校1年生は4時間目を早めに終えて給食の準備を始めるので、中学生の授業の邪魔にならないか。また、ひかりが丘の子どもは小中学校合わせて70~80人ほどいるが、人数が多いので通学路の安全は確保されているのか。不安なので一緒に相談したい。

- 座長 : 次回の会議は1月で、基本設計案の検討は最後になる。それまでに確認したいことはもうないか。
- 参加者 : 部屋の入り口のメディアスペースを有効活用できないか。階段下のスペース利用はどうか。
- 設計業者 : メディアスペースは授業以外でも学習のきっかけを作る場である。階段下の活用は考える。
- 参加者 : 2階理科室前に廊下があるが、窓際まで必要か。スペースの有効活用を考えていただきたい。
- 事務局 : 先ほども言ったが理科室については検討する。
- 参加者 : 死角をあまり作らない方がいい。メディアスペースを収納スペース等にしてほしい。オープンスペースの活用方法を教えてほしい。
- 事務局 : そんな声をいただき良かった。教育課程を編成していくうえでそういった声が必要だ。設計業者に多くの事例があり、紹介していきたい。
- 座長 : 福井ではオープンスペースの活用について実践例がある。
- 事務局 : 別紙案に示したものは年内にある程度方向性をはっきりさせたい。12月26日までに学校で検討して意見を出してほしい。1月末をめどに基本設計を終えて、以後実施設計に入る予定である。

## 6 事務連絡 (事務局)

今回は1月16日(金)の予定である。学校の要望をもとに、最終基本設計案を示すので、決めていきたい。